

秩父の深山を歩く

県民の森コース 埼玉県横瀬町

岩手、宮城、栃木、茨城、埼玉、三重、広島、長崎、大分の9つの県の県民の森にパーマネントコースが設置されています(廃止・休止含む)。その中から今回は4年前にリニューアルされた埼玉の「県民の森」コースを紹介します。

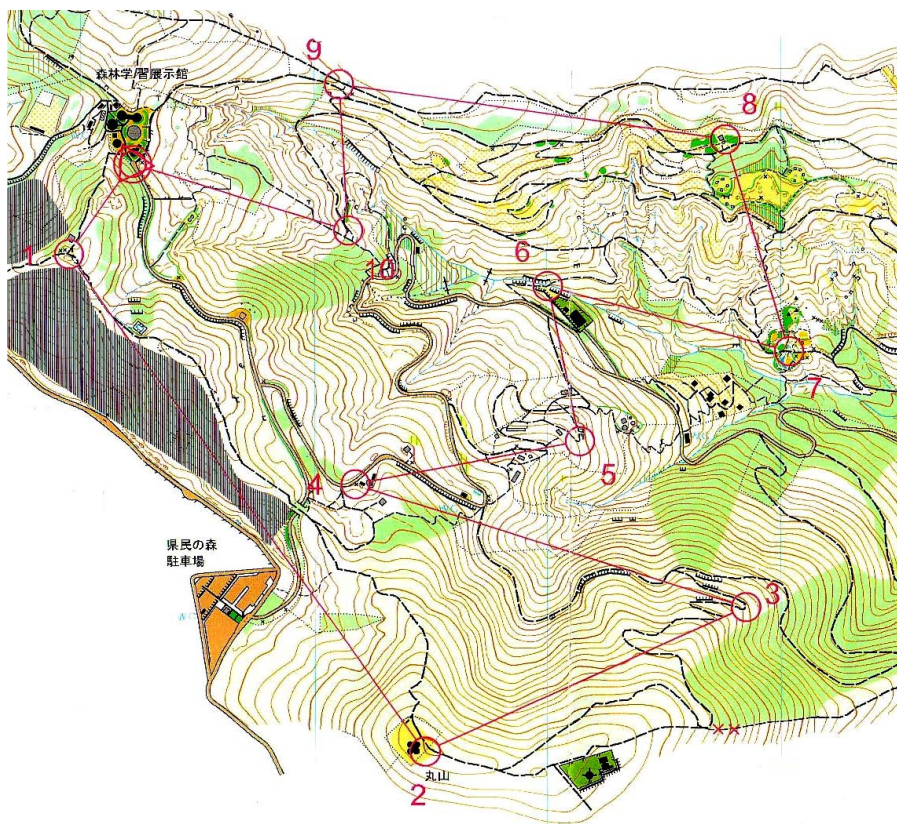
「県民の森」コース 埼玉県 No.31
JOA 公認 No.719 6km 10 ポスト

秩父の深山

「芦ヶ久保」駅下車徒歩90分。駅前を基点とするコースが多い埼玉県内のコースの中では異色のロケーションに設置されています。その分、首都圏であることを忘れてしまいそうな深山気分をたっぷりと味わうことができるコースです。

1981年5月に整備された埼玉県県民の森にパーマネントコースが開設されたのは1986年のこと。当時は県民の森内を巡るBコースと、北側に続く林道から雄大な景色を楽しみながら歩くAコースの2コースが設置されていました。20年前の1991年6月29日に初めて挑戦したのはAコース。自動車免許を取得してわずか1年の頃で、蛇行する狭い山道に肝を冷やしながら車を走らせたことを今でも鮮明に覚えています。

2007年に県民の森エリア内に限定した新たなコースが生まれ、1コースのみとなった際に若干のお手伝いをさせていただきましたが、全コースを歩くことはしていなかったこともあり、改めて訪れてみることにしました。



地図はネットプリントで

地図はセブンイレブンのネットプリントから1部200円で入手します。事前に郵送をお願いするか、現地に行かなければ手に入らなかったPC地図がこうして簡単に確保できるのは嬉しい限りです。今回はスタート地点の森林学習展示館が冬季閉鎖中(12/1~3/31)のため、以前であれば「現地に行ったのにマップが手に入らず、虚しく帰るだけ」という事態にも陥り兼ねないタイミングです。PC人気減退の一因にもなったマップ入手のトラブルがこの方法で一気に解消されたことから、ネットプリント化は早期に拡大が図られることを期待したいものです。

この日は前日にサッカーアジアカップの決勝戦があり、深夜までテレビ観戦したことが祟って朝寝坊。午前11時に大船でレンタカーを借りて、現地に到着したのが15時過ぎでした。普段ならゴールをしようかという時間です。

身も凍るような寒さの中、駐車場から5分ほど歩くとスターと地点の森林学習展示館に到着します。案内板も20年前と同じ佇まい。FRPの耐久性には感心しきりです。閉鎖中ということもあり、周囲に人の気配は全くありません。

芦ヶ久保駅近くで0℃の気温表示でしたから、標高900mのこの地点では確実に氷点下。冷たい風も吹き、早くも手の感覚が怪しくなり始めています。

ネットプリントのマップはコース図もすでに印刷済みのため、マスターマップから転記する手間がありません。スタート地点に着いたら方角だけ確かめて、すぐに出発です。

巨大霜柱を踏みしめて

最初のポストは丸山に通じる尾根道までさっそく直登です。冷え切った体を暖めるにはうってつけですが、暖まるまではしんどいばかり。短時間ながら息を切らして開けたピークに到達すると、ポストは素直に立っています。

第2ポストはこのコースのハイライト。標高960mの丸山山頂まで上ります。丸山トンネルのを越えると本格的な上り坂が始まるのですが、足元を見ると土が異様に盛り上がっています。立ち止まって見てみると、子供の頃にはよく見かけた霜柱が顔を覗かせています。最近では暖かくなったのか、見かけることも少なくなっていたこともあり、懐

かしさが込み上げます。ただこの霜柱、これまでの印象とは大きく異なります。記憶にある霜柱は、靴で踏みしめるとサクッという音を残して沈み込むような感覚が心地よかったのですが、これはそんな柔なものではありません。乗り上げてもびくともせず、80 kg近い私の体重をもものとしめない猛者なのです。これでもかと踏んづけてみると、ようやくゴリッという音とともに沈み込むという強度の持ち主。高さも10cmは軽く超えるような大きさです。この後も随所で巨大霜柱に遭遇することになります。



丸山山頂は20年前に歩いたAコースの第9ポストでもありました。寒風に晒されながらも額に汗を浮かべて山頂まで上りきると、展望広場と名づけられた広々とした空間があり、立派な展望台が出迎えてくれます。ポストもどこに隠れるともなく素直に立っています。時間に余裕がある温暖な季節には、お弁当休憩にここはうってつけ。この日は寒い上に時間も早くに次のポストへ向かいかけたのですが、何やら気になる文字が記された真新しい札のかけられた樹木を見つけます。札に記された文字とは「アブラチャン」。詳しい方には別にどうということもない木なのですが、樹木に疎い私は妙に愛嬌のある名前に思わず顔がほころびます。後で調べてみると、漢字表記では「油瀝青」と書き、その昔は油分の多い樹皮や果実を灯油としても利用した樹木だそうです。

丸山からの下りはピークを迂回する北側のルートを選択。このあたりから小道は深い落ち葉に覆われてきます。踏みしめるだけなら柔らかくて快適な落ち葉も、足首まで軽く沈めてしまうほどになると繰り出す足も重くなり、少々厄介です。いったん尾根筋の道と合流し、またすぐに分かれると、九十九折の下り坂の途中で第3ポストを発見します。



さらに下ると分岐を迎え、流れのままだに西へと向かいます。相変わらず大量に積もった落ち葉を足でかき分けながら、等高線沿いのなだらかな道を進み、合流した舗装道路も更に西に行く。炭窯前で第4ポストを確認します。

改良埼玉が「黒炭2号式」というその窯の案内を読んでも「跡」の文字がなく、いまだに現役の様子。家庭用暖房として近年見直されている木炭を2〜3日かけて生成しているそうです。

落ち葉の道との分岐まで戻り、今度は東に下る道へ。「子供の広場」と名づけられた一帯に続く小道の細かな分岐を東へ東へと進むと、冬枯れの林を背にして第5ポストが姿を現します。

ここから北に下り、舗装道路を一瞬経由して小道を進むと岩の目立つ沢に架かる趣のある橋があり、渡った先に第6ポスト、そして遊歩道を東に下ると水辺の広場に第7ポストが置かれています。水気のあるところはことごとく凍りつき、春まだ遠しの佇まいです。



少々引き返し、ここからは上りに転じます。けやきの森を抜け、家族広場の西縁を登ると第8ポストは東屋の脇にあります。

上り坂で乱れた息を整えるには好都合のなだらかな道を歩くとそのまま第9ポストに導いてくれます。2本の道に挟まれた位置に立つポストは、やや高いところでオリエンティアを待っています。

17時を回り夕暮れ迫るなか最終ポストへ。ゴールへはそのまま西へ進めば到達するのですが、すんなりとは歩かせてくれず、林の中を南へ下ります。沢を回りこみ、遊歩道を進むと尾根道との分岐にポストを発見します。陽のあるうちに無事全ポストを回ることができ、あとはゴールを目指すのみ。

気を入れなおして最後の上りをクリアし、中央広場を抜けるとこのコースも終了です。

スタート時よりも確実に下がった気温にも、快適なコースを回り終えた満足感が体を温めてくれています。

最近ではショートコースに改定する事例が相次いでいますが、中弛みを一切取り除いたこの「県民の森」コースは利用者拡大のモデル事例かもしれません。秩父周辺にはたくさんの温泉もありますので、OLとセットで訪れると至福の休日となるでしょう。

(2011年1月30日 踏破)

(大高竜亮)